

[麦 類]

1. 作付の概況

九州地域における平成18年産の麦類の作付面積は55,450ha で、前年とほぼ同じであった。麦種別では、小麦が37,800ha、二条大麦が16,300ha、裸麦が1,350ha で、前年に比べて小麦は800ha増加したが、二条大麦は400ha、裸麦は30ha減少した。全国の作付面積に占める九州地域の割合は、小麦が17.3%、二条大麦が47.8%、裸麦が30.5%であった。

県別では、小麦は福岡県、佐賀県、熊本県で増加した。二条大麦は佐賀県、熊本県で減少した。裸麦は、福岡県、佐賀県、長崎県で減少し、大分県で増加した。

2. 生育概況

播種、出芽・初期生育は概ね順調であった。12月から2月上旬までは低温、その後もやや低温に経過し、出穂期が平年に比べ5日程度遅かった。出穂後の気温は平年並であったが、5月2～4半旬は降雨が多く、寡照で経過した。成熟期も平年に比べ5日程度遅かった。粒の充実が全般に悪く、品質もやや劣った。また、赤かび病の発生が見られた。その結果、九州全体の10a当たり平均収量（過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均）対比は、小麦で103、二条大麦で95、裸麦で97と平年並かやや低かった。

3. 作柄の概況

各県の10a当たり平均収量対比は、小麦では98～109と平年並からやや良、二条大麦では82～98とやや低く、裸麦は長崎県が89であった以外は96～104で平年並であった。

(九州沖縄農業研究センター 小麦・大麦育種ユニット 藤田雅也)

平成18年産麦類の作付面積と収穫量

全国農業地域 ・ 都道府県	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考) 10a当たり 平均収量 対比
				作付面積		10a 当たり 収量		収穫量		
				対差	対比	対比	対比	対差	対比	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	
(小麦)										
全	218 300	383	836 500	4 800	102	93	△ 38 200	96	98	
九	37 800	383	144 900	800	102	96	△ 2 700	98	103	
福	16 300	417	67 900	200	101	100	500	101	109	
佐	11 600	389	45 100	300	103	89	△ 4 000	92	98	
長	963	339	3 260	△ 57	94	95	△ 380	90	104	
熊	5 410	355	19 200	300	106	99	1 000	105	102	
大	3 400	274	9 330	10	100	103	300	103	98	
宮	33	276	91	△ 12	73	94	△ 41	69	99	
鹿	26	238	62	3	113	90	1	102	98	
(二暨大麦)										
全	34 100	347	118 300	△ 700	98	97	△ 6 000	95	95	
九	16 300	336	54 700	△ 400	98	97	△ 3 000	95	95	
福	3 720	320	11 900	200	106	99	500	104	98	
佐	9 610	354	34 000	△ 490	95	96	△ 3 300	91	95	
長	674	329	2 220	20	103	93	△ 100	96	92	
熊	1 460	296	4 320	△ 110	93	108	0	100	95	
大	713	265	1 890	60	109	88	△ 80	96	82	
宮	27	248	67	1	104	90	△ 5	93	88	
鹿	120	243	292	△ 20	86	124	18	107	93	
(裸麦)										
全	4 420	303	13 400	△ 120	97	113	1 300	111	90	
九	1 350	277	3 740	△ 30	98	101	△ 30	99	97	
福	244	333	812	△ 22	92	110	7	101	103	
佐	75	351	263	△ 22	77	102	△ 71	79	104	
長	302	224	676	△ 12	96	88	△ 120	85	89	
熊	22	300	66	5	129	104	17	135	104	
大	698	274	1 910	15	102	106	140	108	96	
宮	3	235	7	△ 1	75	90	△ 5	58	98	
鹿	1	241	2	1	...	104	2	...	98	

注：1) 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である。

2) △は減少を示す。

3) 資料は平成18年11月8日農林水産省公表の「平成18年産4麦の収穫量（訂正版）」による。